

《自然のタネ蒔き : その 4 . 動物散布(貯食型)》

リスやネズミなどの動物が、冬越しの食糧として貯めておいたのを食べ残したり、忘れていたのが発芽して、仲間を増やす場合があります。とはいえ、春までに食べつくされてしまうことの方が多いようですが。

① ドングリの仲間



ミズナラ



ウバメガシ



スダジイ

(落葉樹, その年の秋成熟, 風が花粉を運ぶ) (常緑樹, 翌年秋成熟, 風が花粉を運ぶ) (常緑樹, 翌年秋成熟, 虫が花粉を運ぶ)



マテバシイ

(常緑樹, 翌年秋成熟, 虫が花粉を運ぶ)

ネズミやリスは、栄養たっぷりのドングリの仲間が大好きで、巣穴やその周辺にため込むといわれます。ドングリといってもいろいろで、皆ブナ科というグループに入っていますが、常緑樹もあれば落葉樹もあり、花粉を虫が運ぶものと風が運ぶもの、その年の秋に成熟するものと翌年秋に成熟するものなどに分けられます。また、コナラやシラカシのようにあく抜きしないと私たちには渋くて食べられないもの、マテバシイのように味はともかくそのまま食べられるもの、スダジイのようにそのままでも十分美味しいものがあります(ただし、味の評価はあくまで宮内の独断によります。スダジイは炒るとさらに美味しい)。

② その他



りました。たいしたものです。)、右のトチノキの実なども同じような散布をされます。ただし、運ばれなければ下に落ちるだけです…。

ドングリの他にも、左のオニグルミ、中のヤブツバキ(どちらも校庭に植えられていますね。工夫を重ね、ツバキから椿油を絞ったクラスもあり

[理科支援員 宮内]